

# 第5章 重点整備地区の概況

## 5. 1 住民意向調査結果のまとめ

### (1) 調査の概要

アンケートの名称	： バリアフリーに関する意向調査	
調査期間	： 平成13年12月27日	調査票配布日
	： 平成14年1月11日	調査票返送期限
対象抽出方法	： 宝塚駅及び逆瀬川駅周辺地域在住者からの無作為抽出 自治会を通じた直接配布 市内障害者団体等	
配布方法	： 郵送及び直接配布	
配布数	： 郵送 1,063通	
	： 直接配布 398通	
	： 合計 1,461通	
回収方法	： 郵送	
回収宛先	： 宝塚市土木部道路公園整備室道路政策課	
回収日	： 平成14年1月15日	
回収数	： 605通 (回収率 41%)	

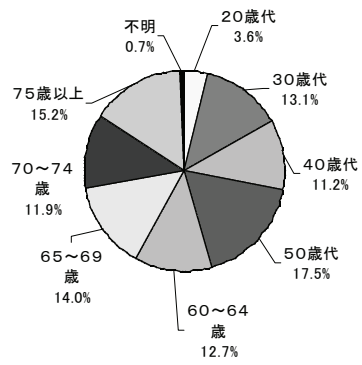


## (2) 調査結果のポイント

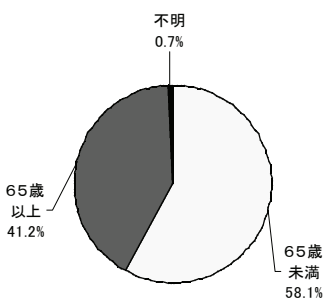
### ◎対象者の年齢層及び性別

約4割が高齢者（65歳以上41.2%）で、20歳～30歳代が約2割と比較的年齢層の高い方からの回答が多く得られた。  
また、男女性別では概ね半数ずつの回答が得られている。

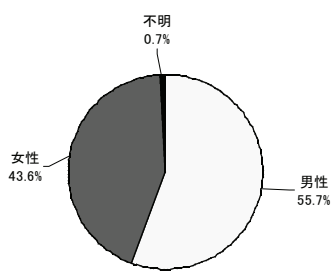
○年代別



○高齢者別



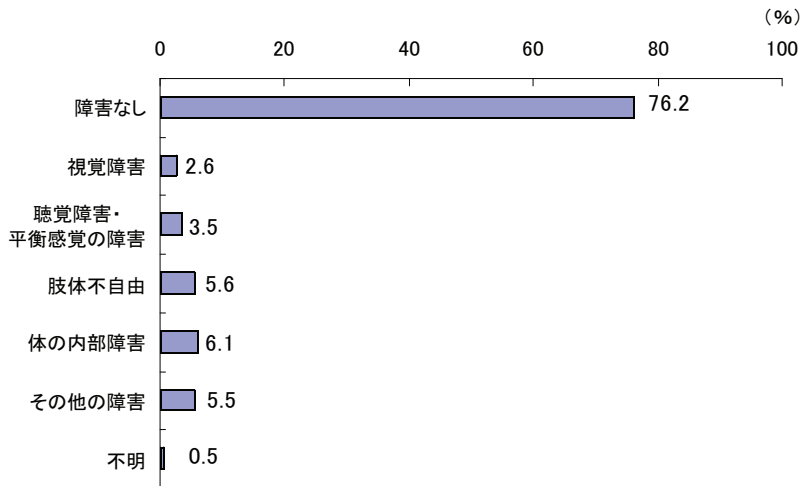
○性別



### ◎障害のある方

障害なし461名、視覚障害者16名、聴覚障害・平衡感覚の障害21名、肢体不自由34名、体の内部障害37名、その他の障害33名（障害は複数回答）と相対的に障害のある方が少ないものの、141名の障害のある方から回答が得られた。また、ケガ等一時的な歩行不安43名、妊婦等37名であった。

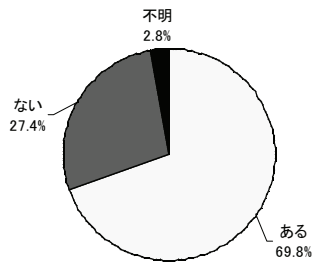
○障害の状況



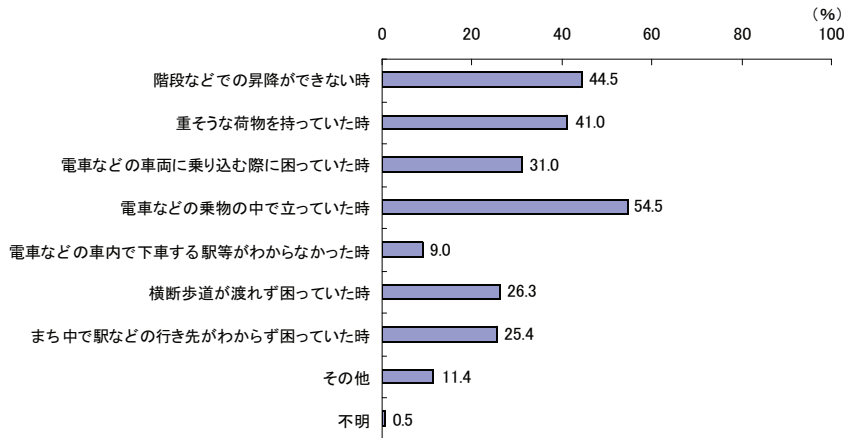
◎まちで高齢者や障害のある方が困っているのを見たときなどに手伝ったことがあるか、またそれはどのような状況のときか

約7割の方が手伝ったりした経験があり、そのうち電車などの車内で席をゆずった等が約5割でもっとも高く、階段などの昇降や重そうな荷物を持っていたときが約4割と多くなっており、高齢者や障害のある方が単独で移動するときには、上下方向の垂直移動が障壁になっていることが伺える。

○介助の有無



○介助した状況

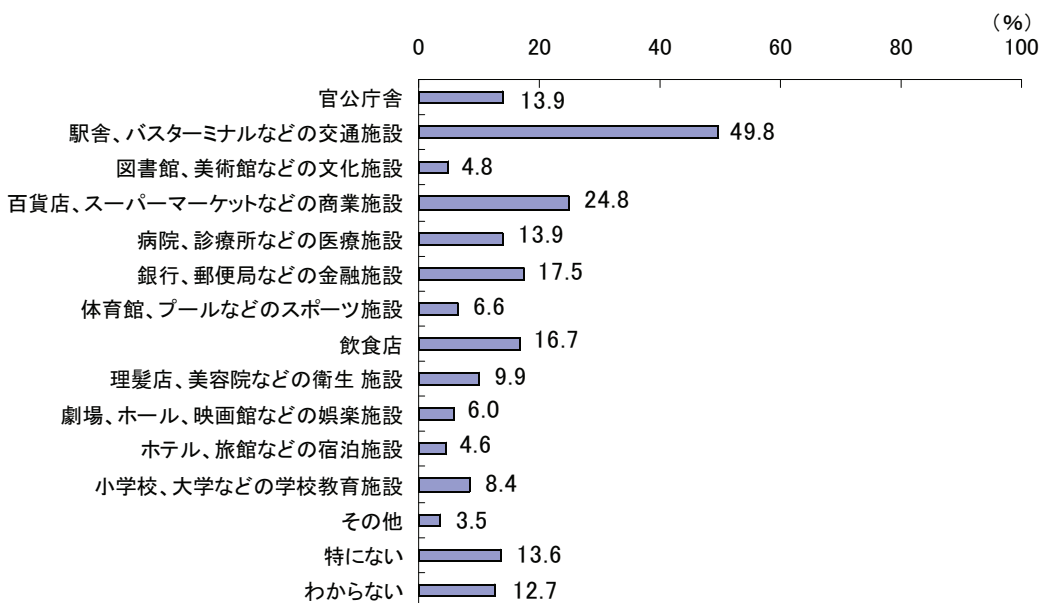


◎市内の施設で高齢者や障害のある方が使いにくいと思う施設はどれか、またどの様なところが使いにくいか、さらに障害のある方はどの様な整備を望んでいるか。

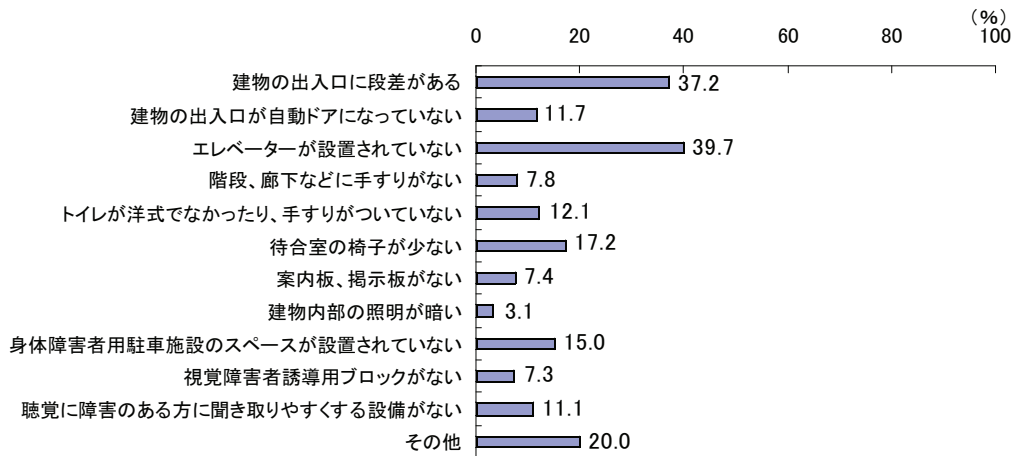
使いにくいと考えられる施設は、駅舎・バスターミナルが最も多く、その理由は、エレベーターが設置されていないため、出入口に段差があるためが多く、駅舎等の交通結節施設のバリアフリー化の重要度が高いことが伺える。

さらに高齢者や障害のある方は、通路などの段差の解消、エレベーターの設置、出入口を広くするなどの整備の要望が多いとともに、特に視覚障害者の方では、階段や通路等への手すりの設置が望まれている。

○使いにくいと思う施設／全体

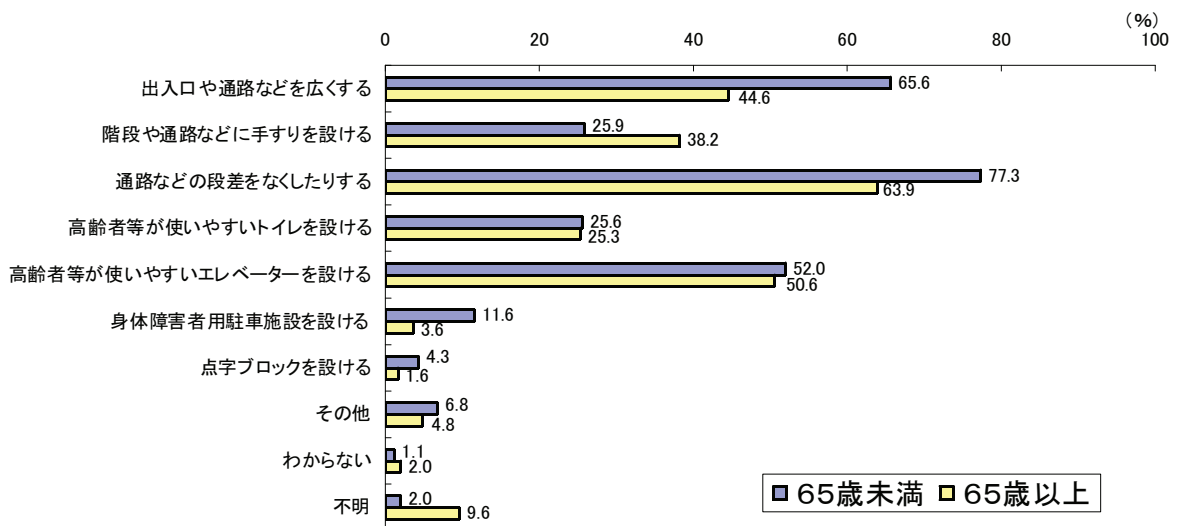


○使いにくい理由

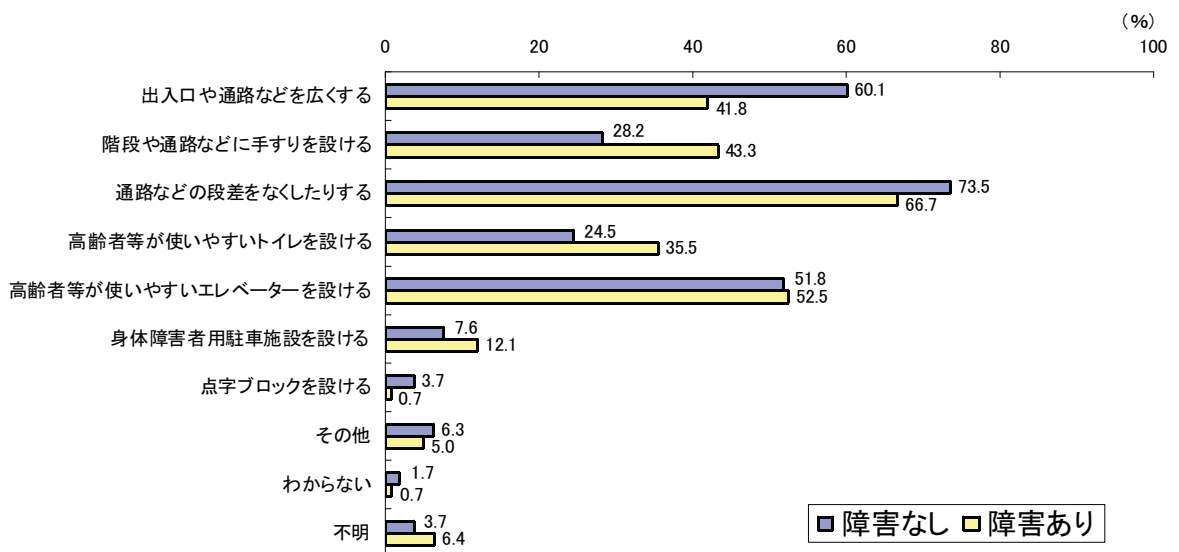


○望まれる整備内容

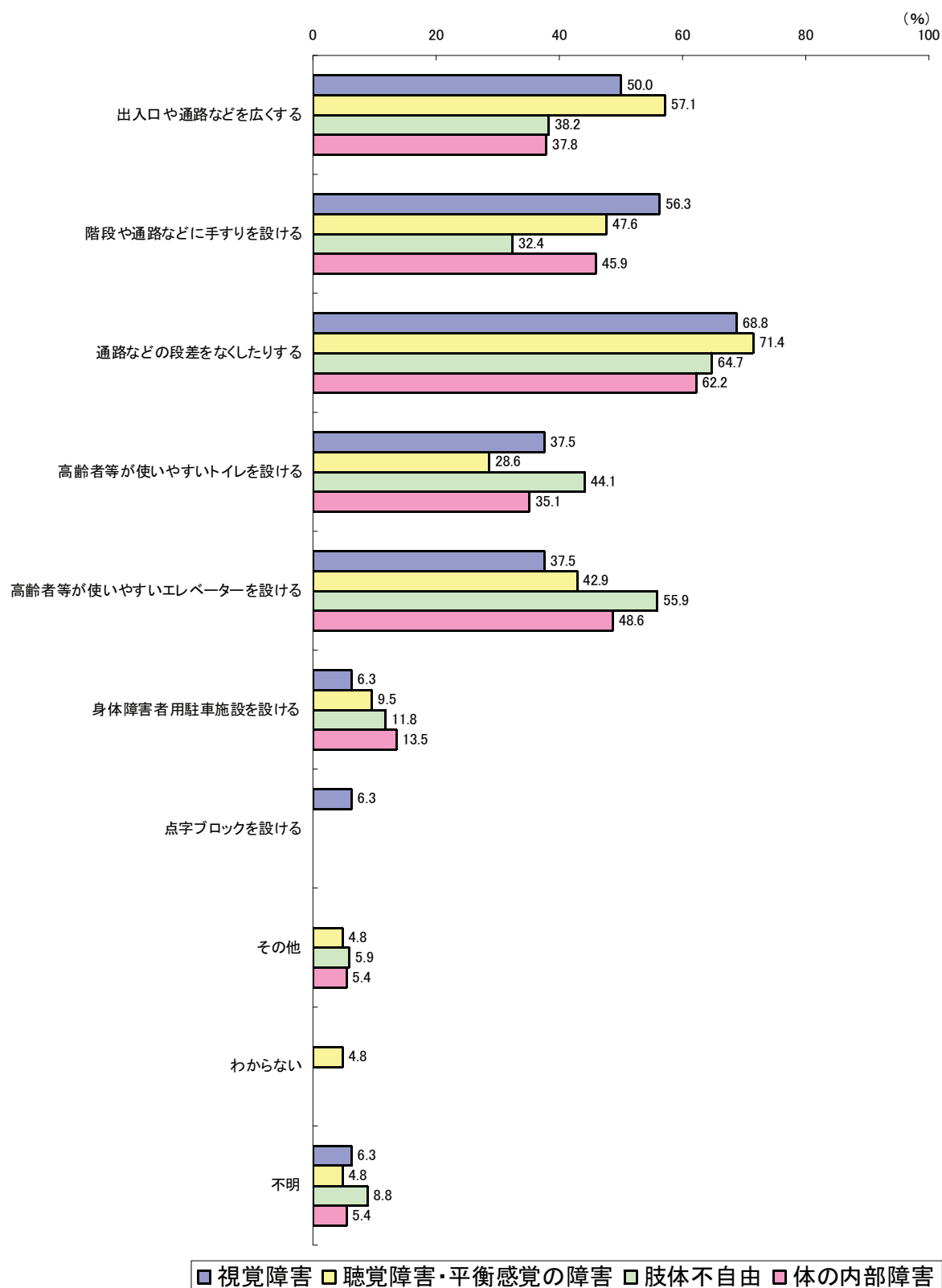
<年齢別集計>



<障害別集計>



<障害別集計(内訳)>

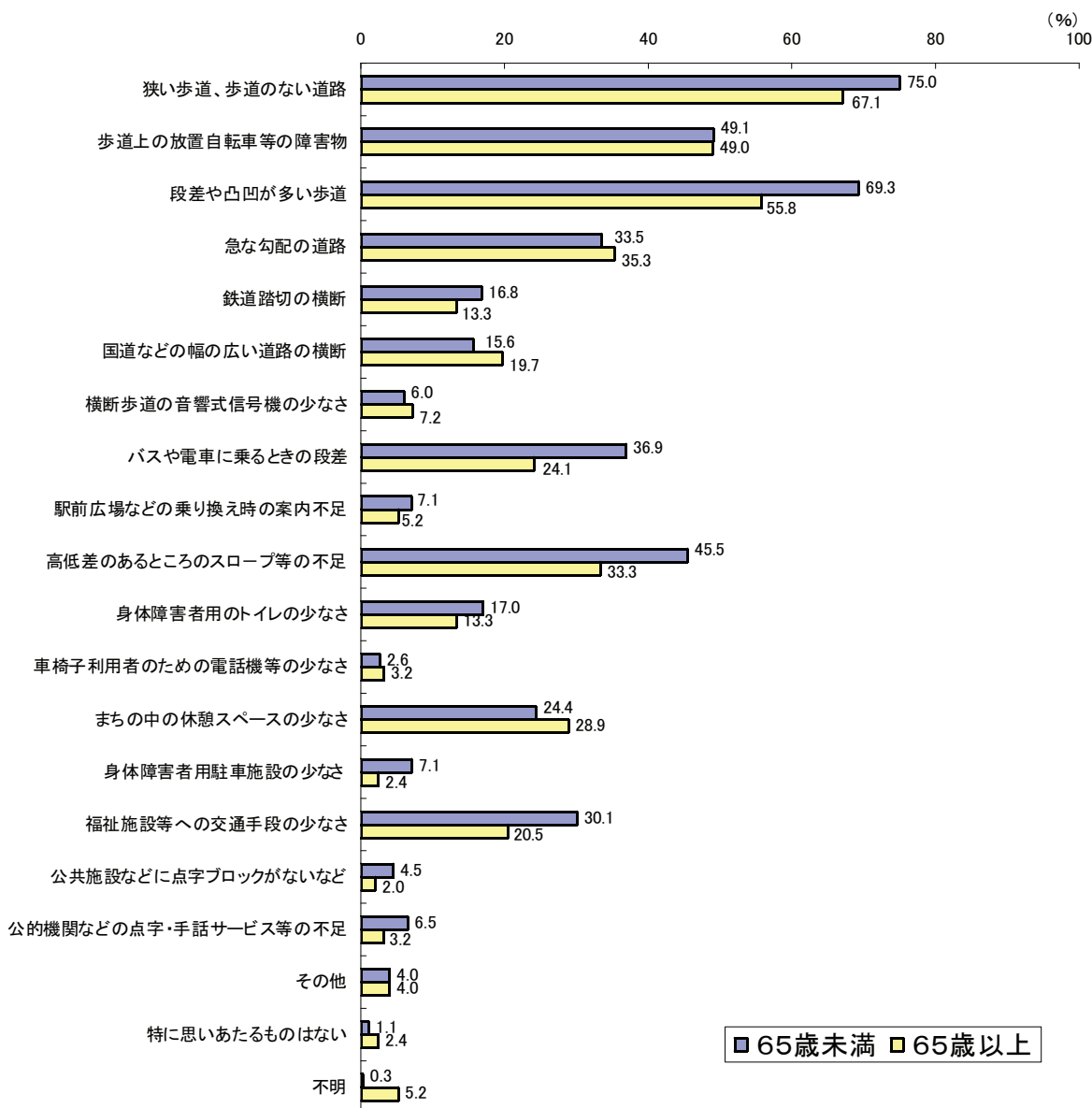


※なお、数値が記入されていない箇所は回答割合が0%となっている。

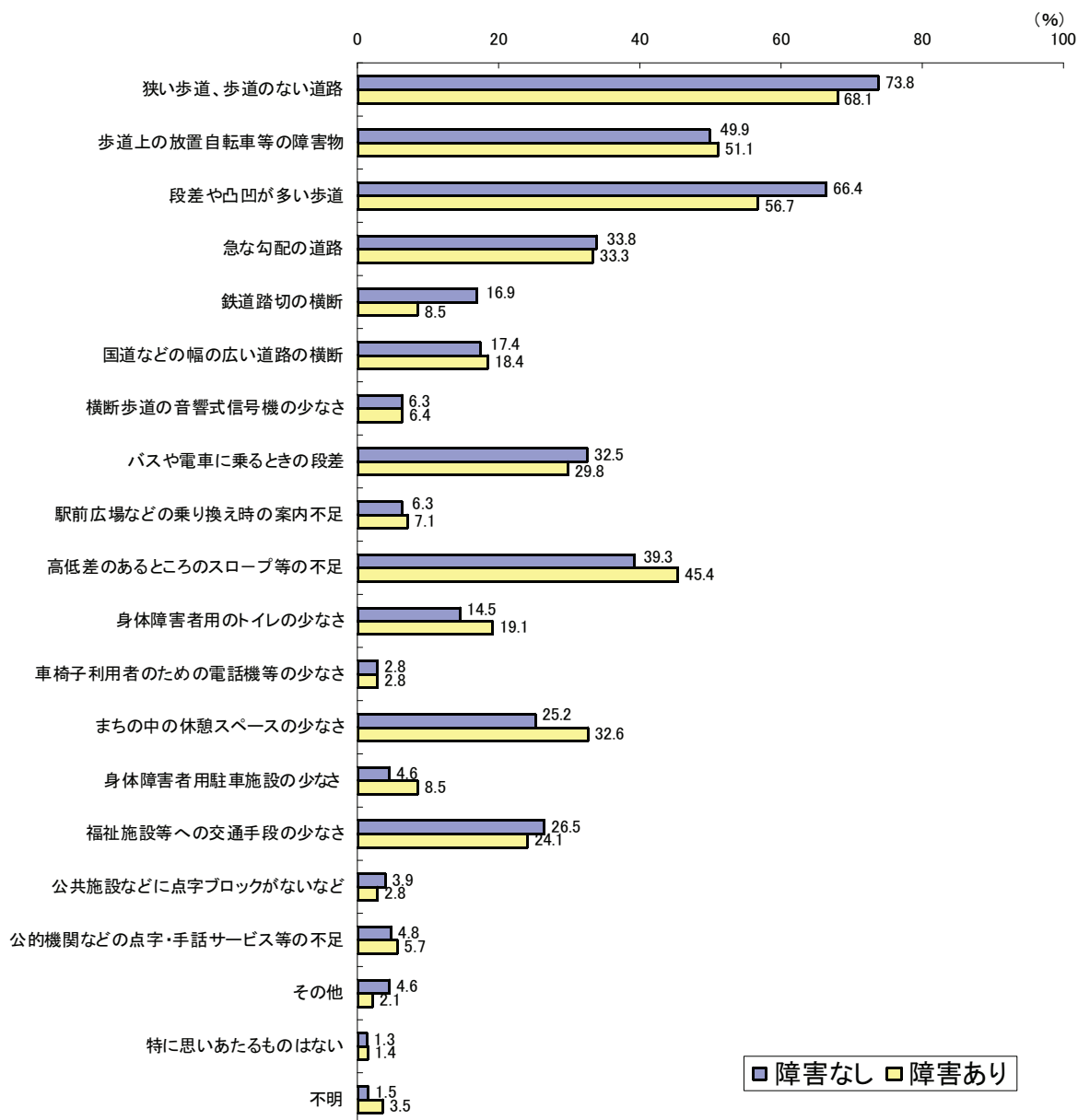
◎主に道路等の公共空間について、高齢者や障害のある方は普段どういったところで困ったり、不便を感じているか。

障害がない方は、狭い歩道や歩道のない道路、放置自転車、道路の段差や凹凸などがあげられている。一方、高齢者や障害のある方においても概ね同様の傾向があるといえるが、特に視覚障害者の方は放置自転車、肢体障害者の方は高低差のあるところのスロープ等の不足や身体障害者用のトイレの不足、聴覚・平衡感覚の障害者の方は公的機関などの点字・手話サービス等の不足、体の内部障害者の方は休憩スペースの少なさを多く上げる傾向が見受けられる。

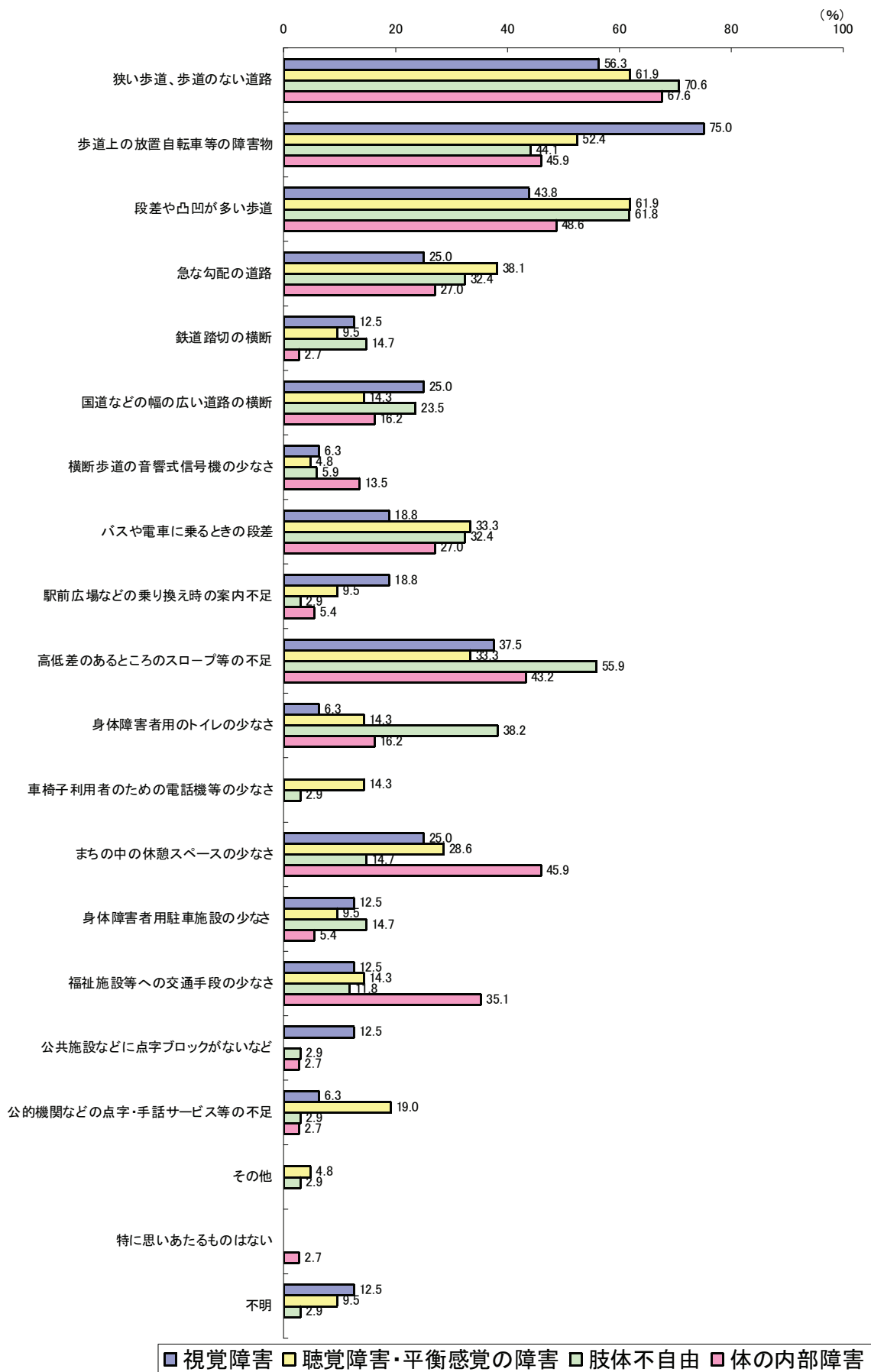
〈年齢別集計〉



<障害別集計>



<障害別集計(内訳)>



※なお、数値が記入されていない箇所は回答割合が0%となっている。

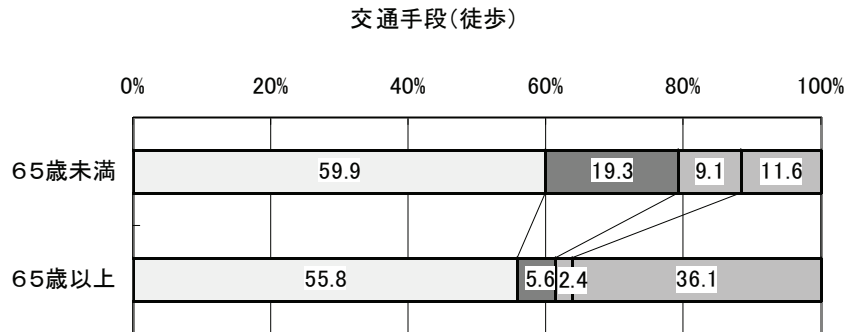


◎外出するときの交通手段として宝塚市内でよく利用するもの

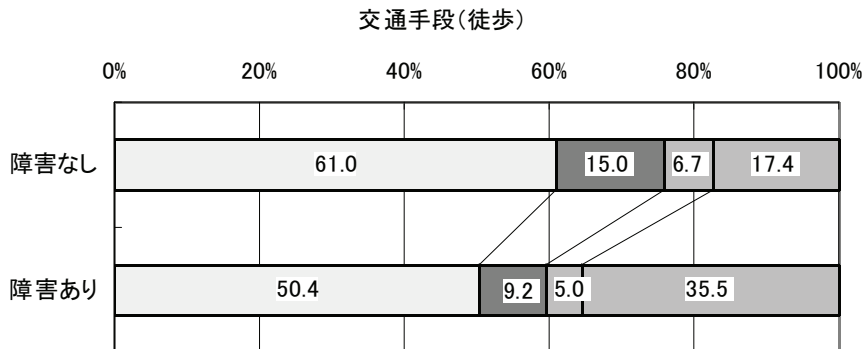
徒歩をよく使う、ときどき使うの合計では、高齢者や障害のある方を含め全体的に約6割を占める傾向が得られ、徒歩は最も一般的な交通手段であることが伺える。一方、障害の有無別集計をみると、バスとタクシーは障害のある方の利用が障害のない方に比べて多い傾向が得られたとともに、年齢別集計においては65歳以上の方の利用が多い傾向が得られた（よく使う、ときどき使うの合計）。このことより、高齢者や障害のある方の交通手段として、バスやタクシーが活躍していることが伺える。

○交通手段（徒歩）

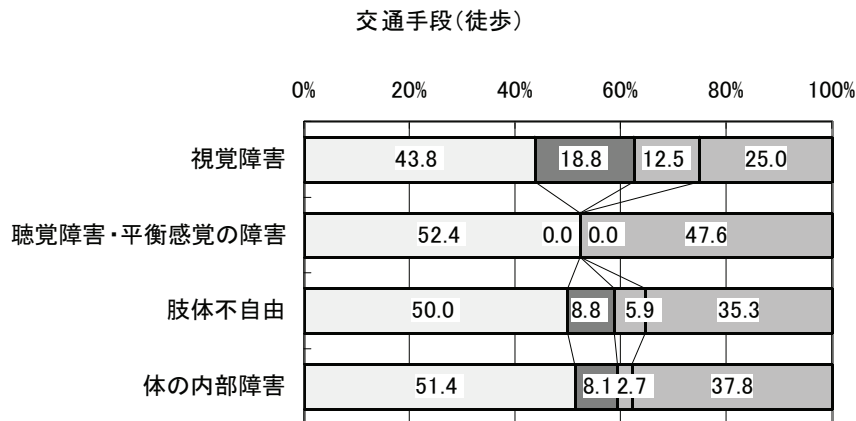
<年齢別集計>



<障害別集計>



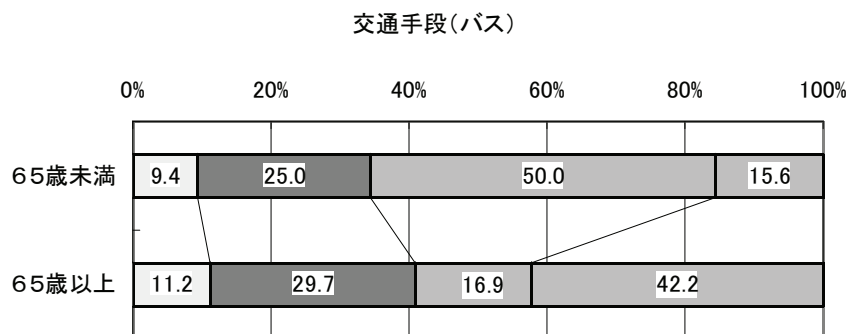
<障害別集計(内訳)>



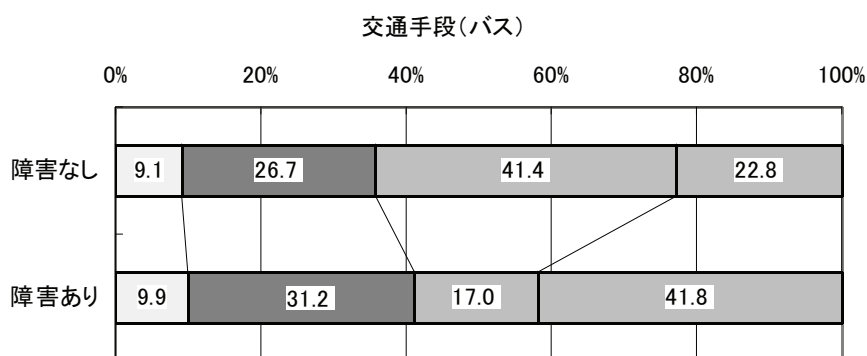
よく使う   
  ときどき使う   
  ほとんど使わない   
  不明

○交通手段（バス）

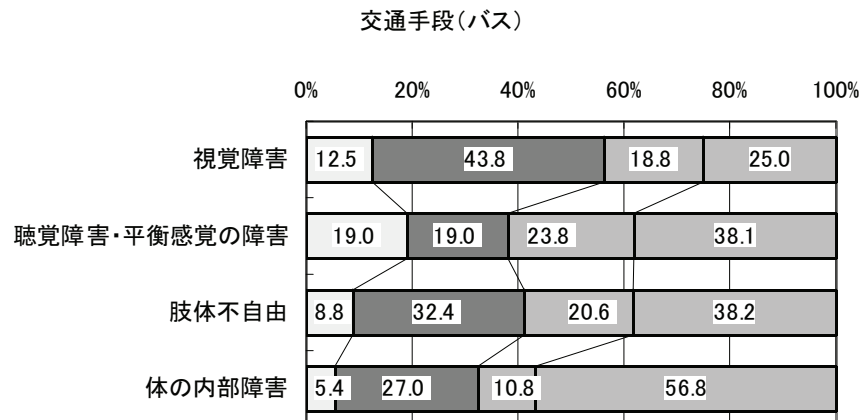
<年齢別集計>



<障害別集計>



<障害別集計(内訳)>

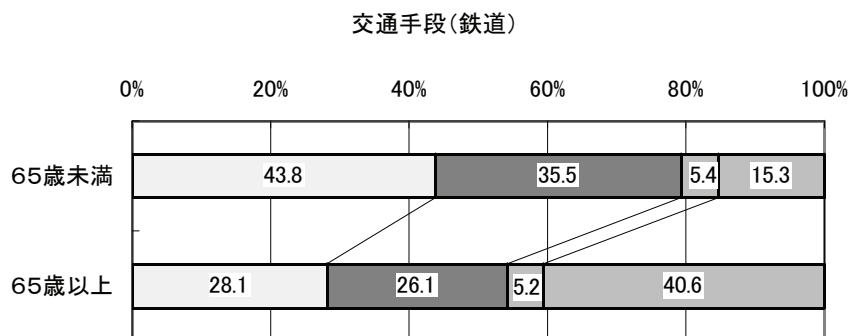


□よく使う    ■ときどき使う    □ほとんど使わない    □不明

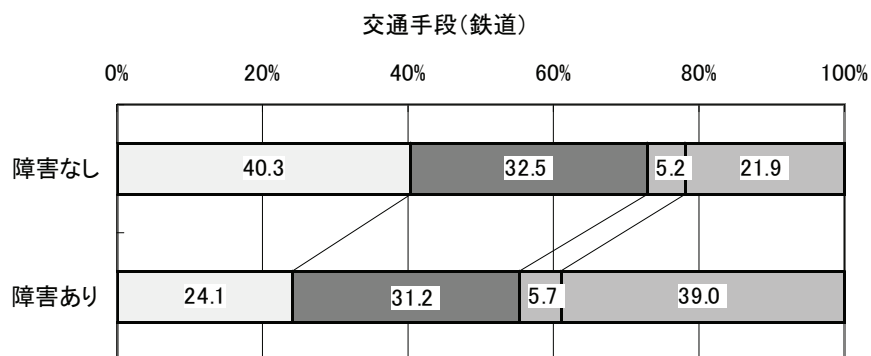


○交通手段（鉄道）

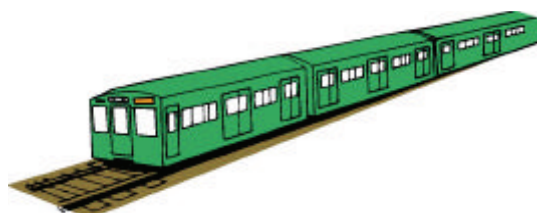
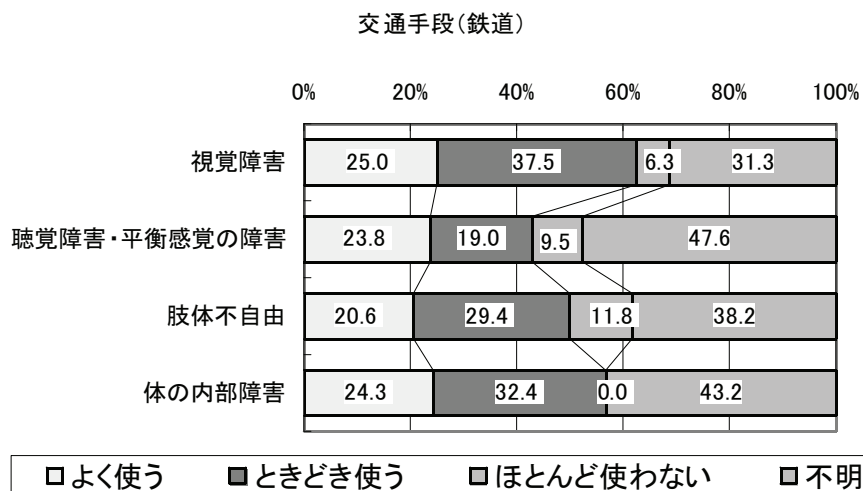
<年齢別集計>



<障害別集計>

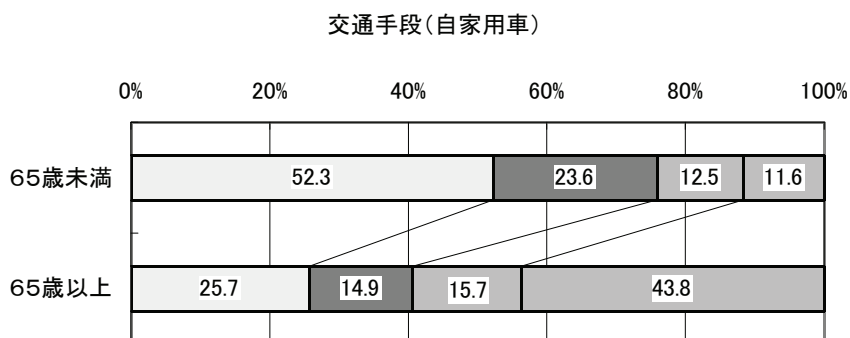


<障害別集計（内訳）>

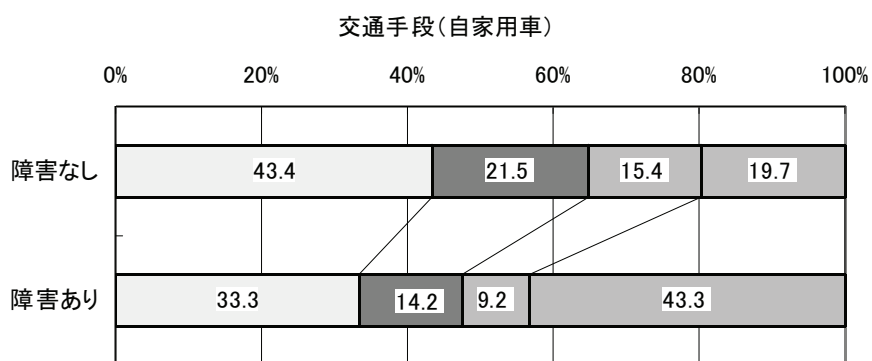


○交通手段（自家用車）

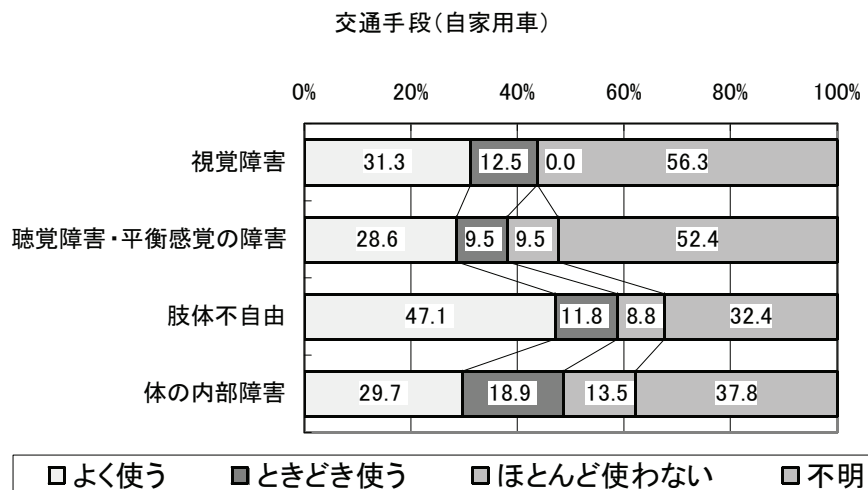
<年齢別集計>



<障害別集計>

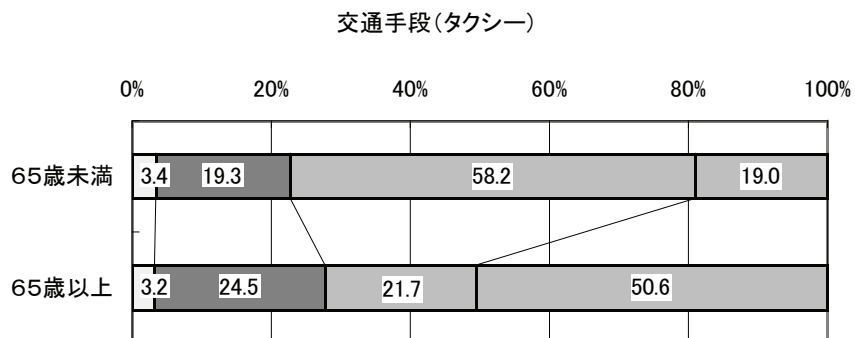


<障害別集計(内訳)>

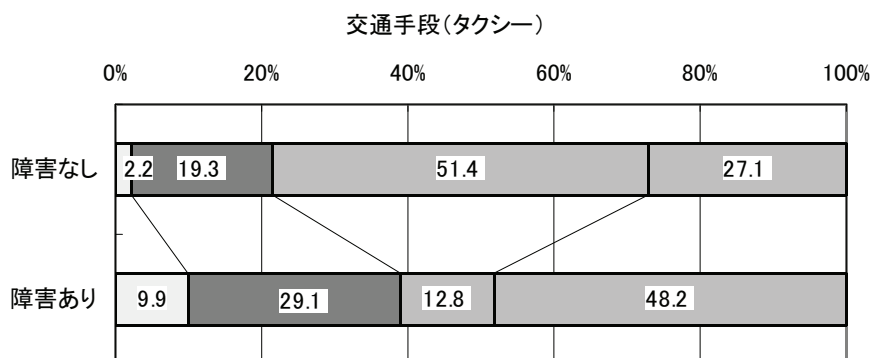


○交通手段（タクシー）

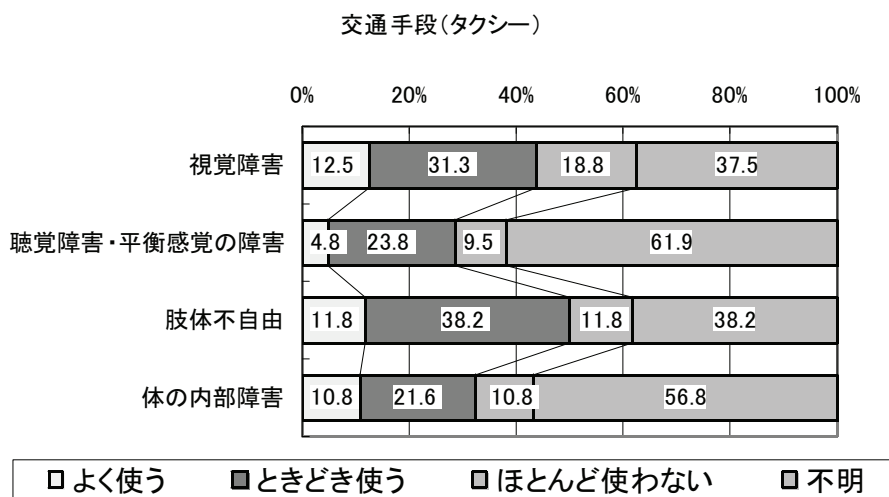
<年齢別集計>



<障害別集計>



<障害別集計(内訳)>

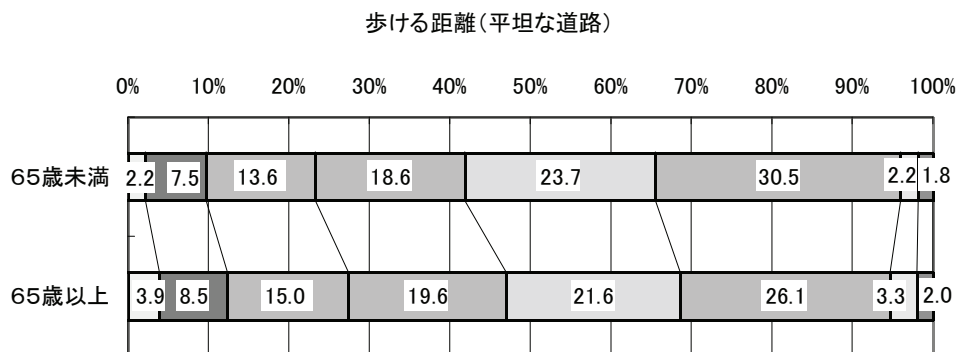


◎抵抗なく歩ける距離（車椅子での移動を含む）

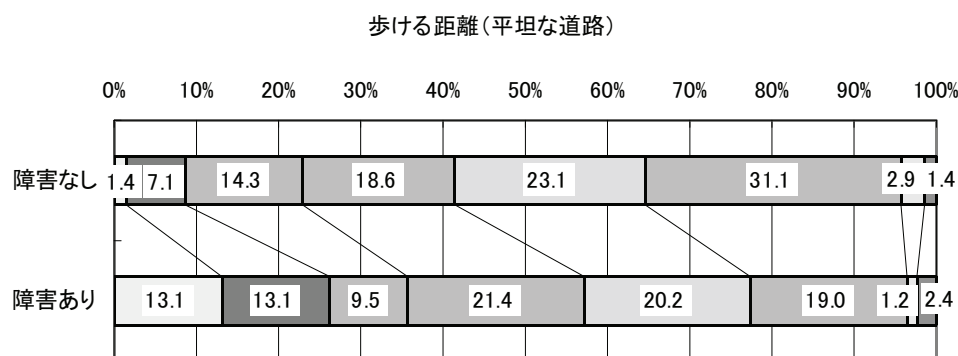
全体を通じて 1.5km 以上と回答する方が多い傾向であるが、聴覚・平衡感覚の障害者の方では 500m 以内が約 3.5 割、肢体障害者の方は 250m 以内が約 3 割占め、障害の別によって移動距離に差が見受けられる。

また、車椅子を利用されている方においては、約 6 割が 250m 以内と回答している。

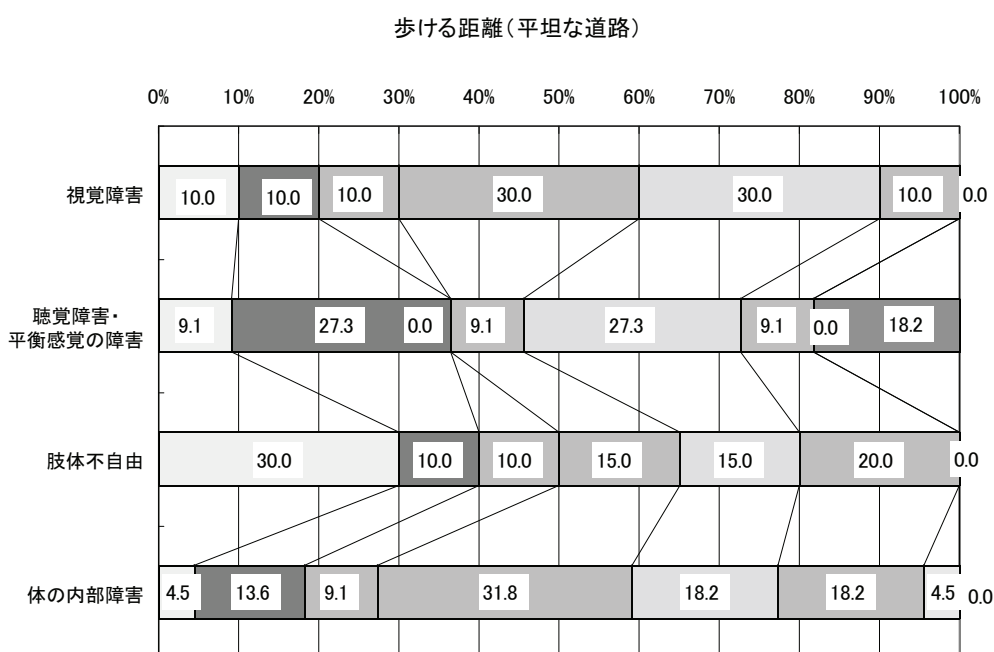
<年齢別集計>



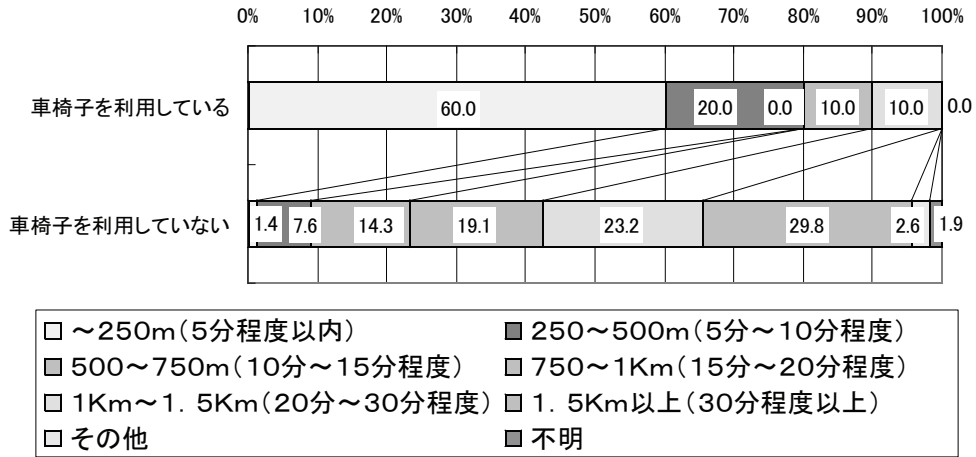
<障害別集計>



<障害別集計(内訳)>



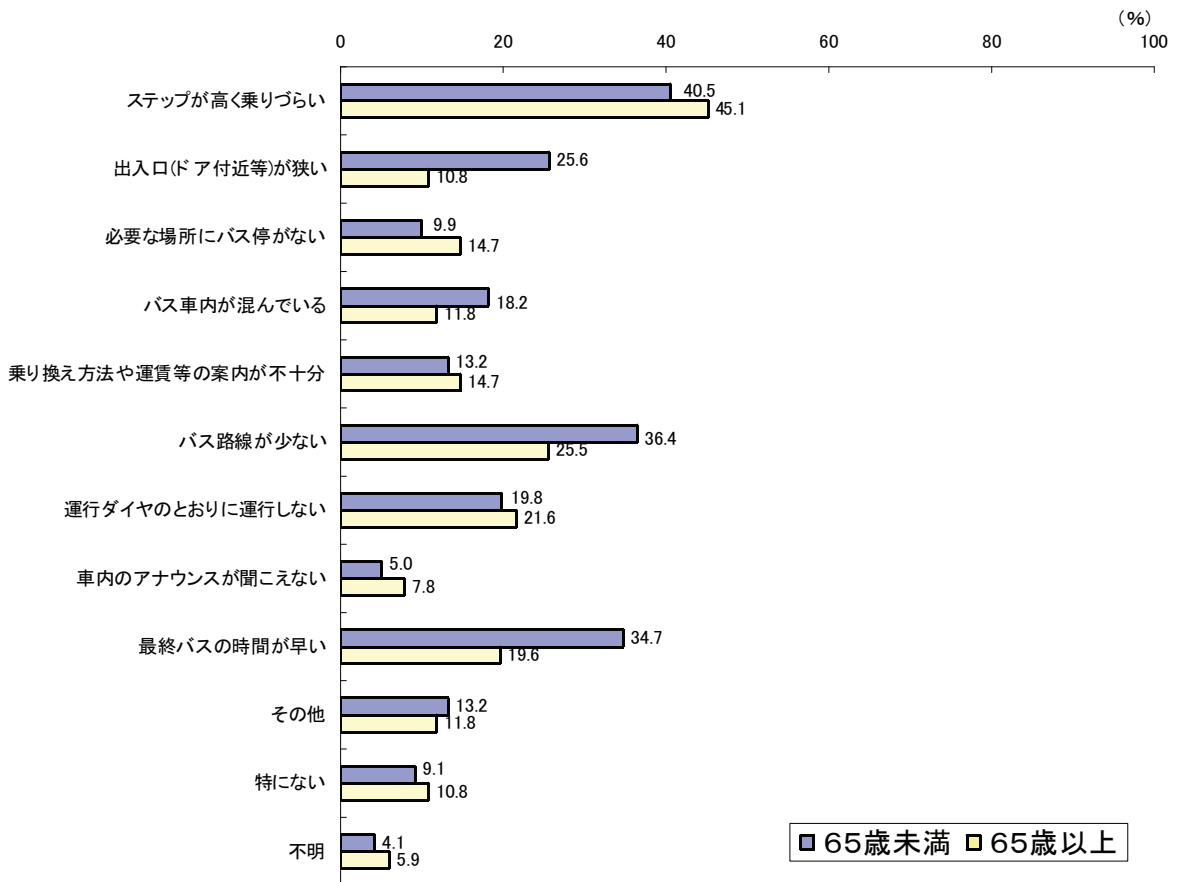
歩ける距離(平坦な道路)



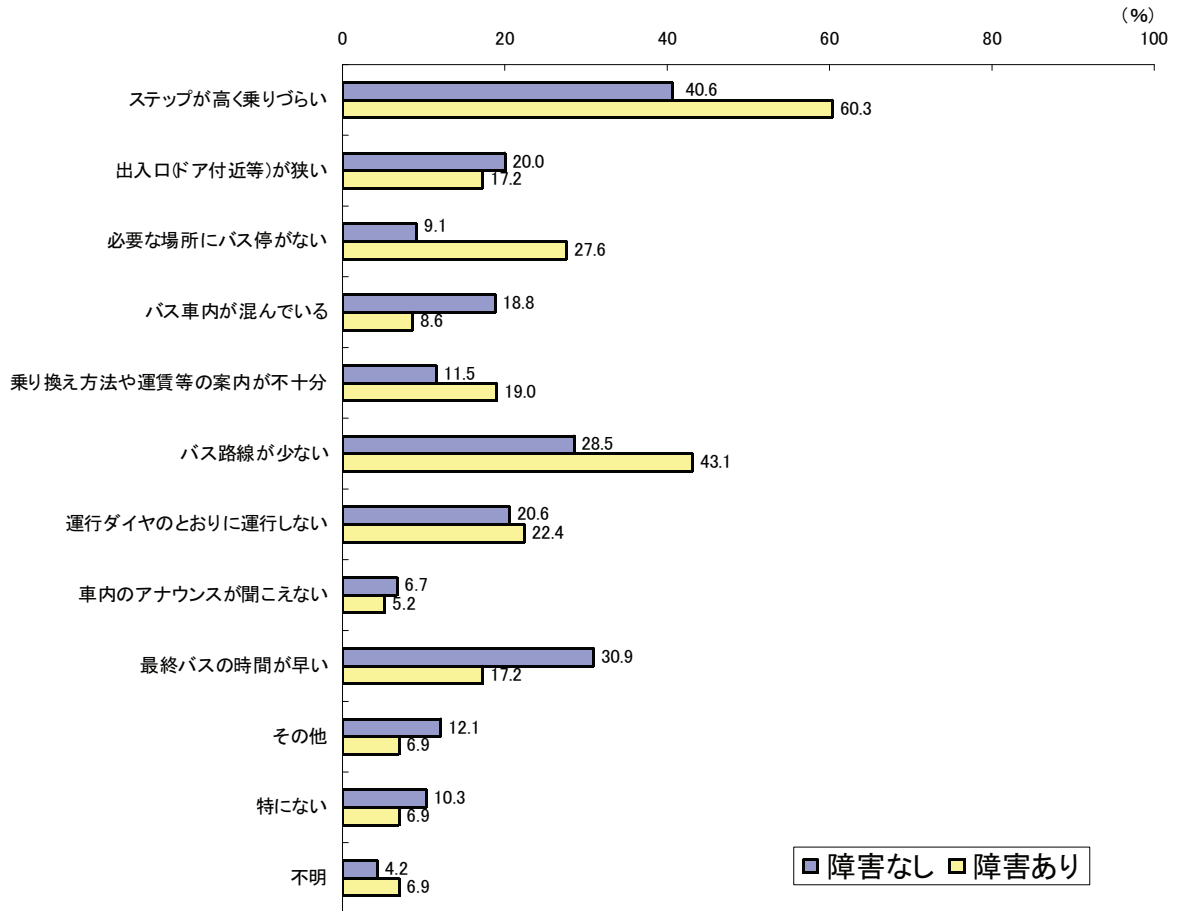
◎バスを利用するにあたって不便に感じるところ(バスをよく利用する、ときどき利用すると回答された方)

高齢者や障害のある方は全体的にステップが高く乗りづらい、バス路線が少ないを特に多くあげる傾向が得られている。また障害のある方は、必要な場所にバス停がないという意見が多い傾向である。一方、障害別内訳では、肢体不自由、体の内部障害者の方の7割以上が、ステップが高く乗りづらいをあげている。

〈年齢別集計〉

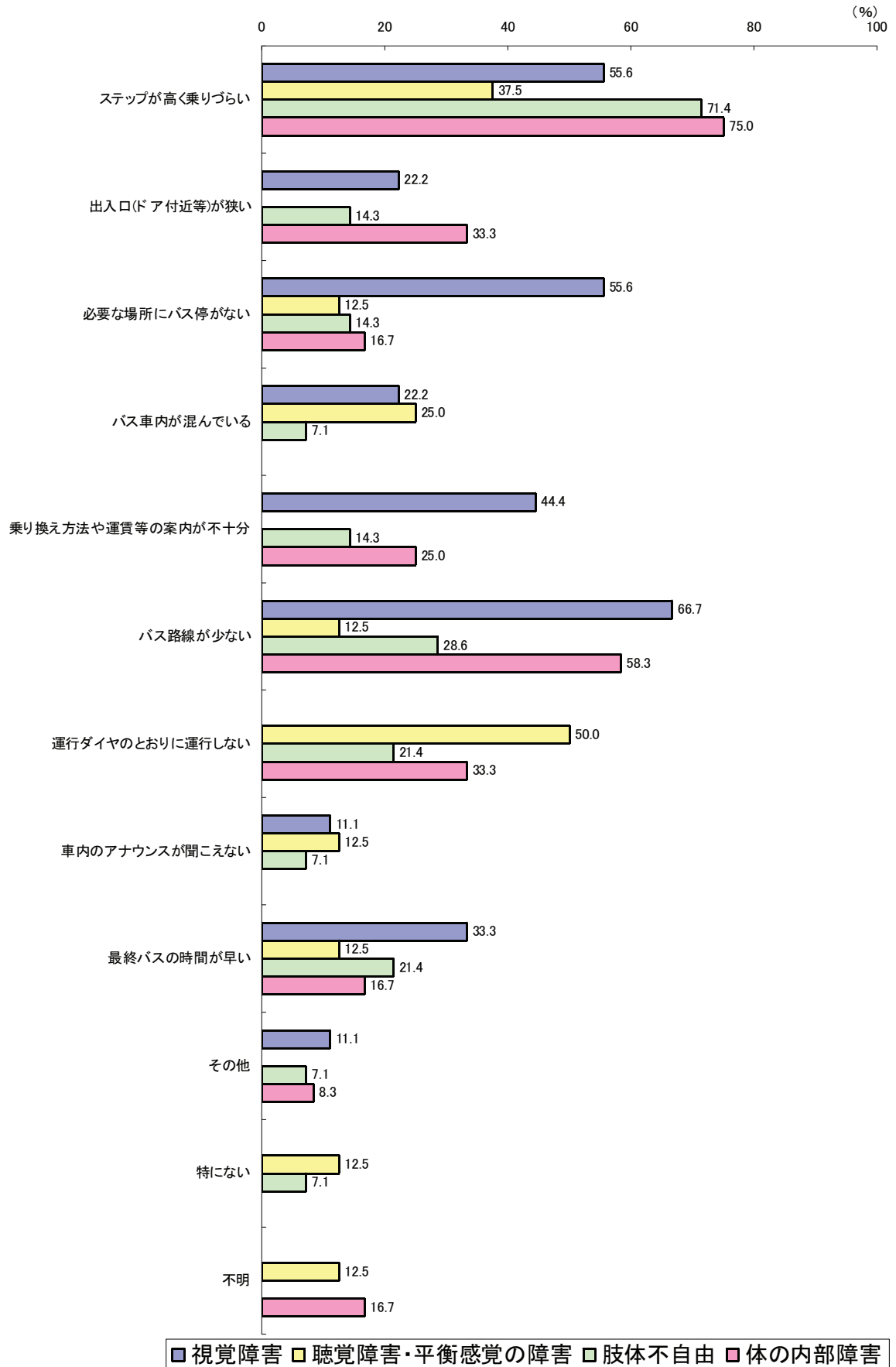


〈障害別集計〉





<障害別集計(内訳)>

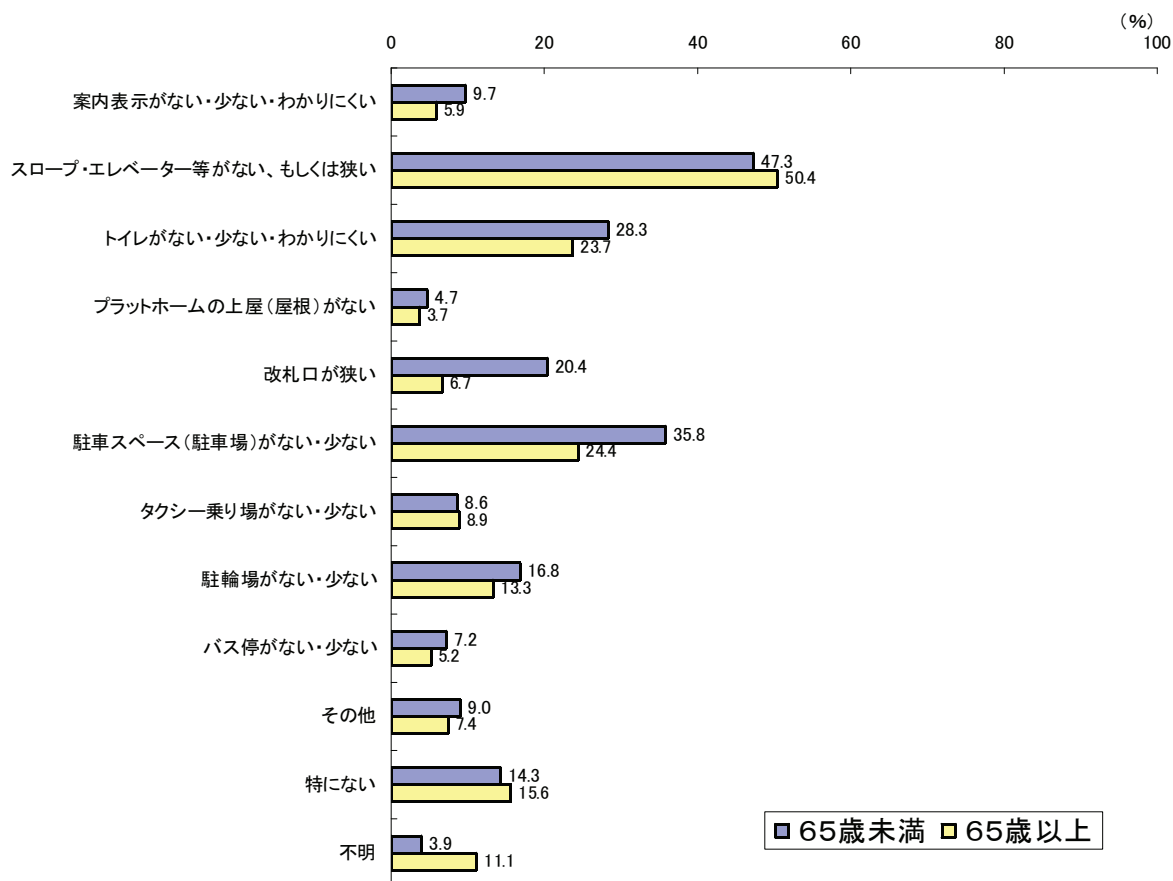


※なお、数値が記入されていない箇所は回答割合が0%となっている。

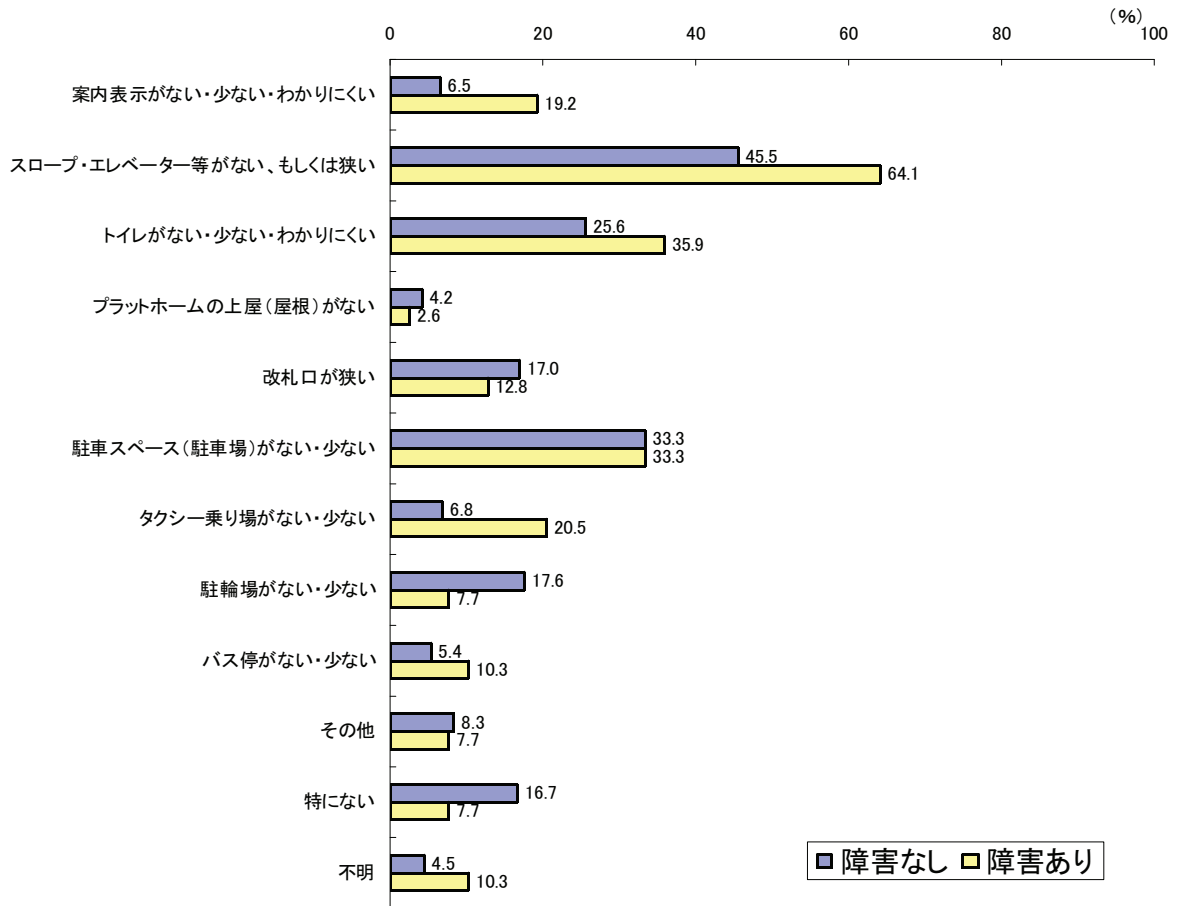
◎鉄道を利用するにあたり駅や駅周辺で不便に感じるところ（鉄道をよく利用する、ときどき利用すると回答された方）

全体を通じて、スロープ・エレベーター等がない、もしくは狭い、トイレがない・少ない・わかりにくい、駐車場がない・少ないをあげる傾向が得られたとともに、障害のある方については、特にスロープやエレベーター等がない、もしくは狭いの回答を多くあげている。

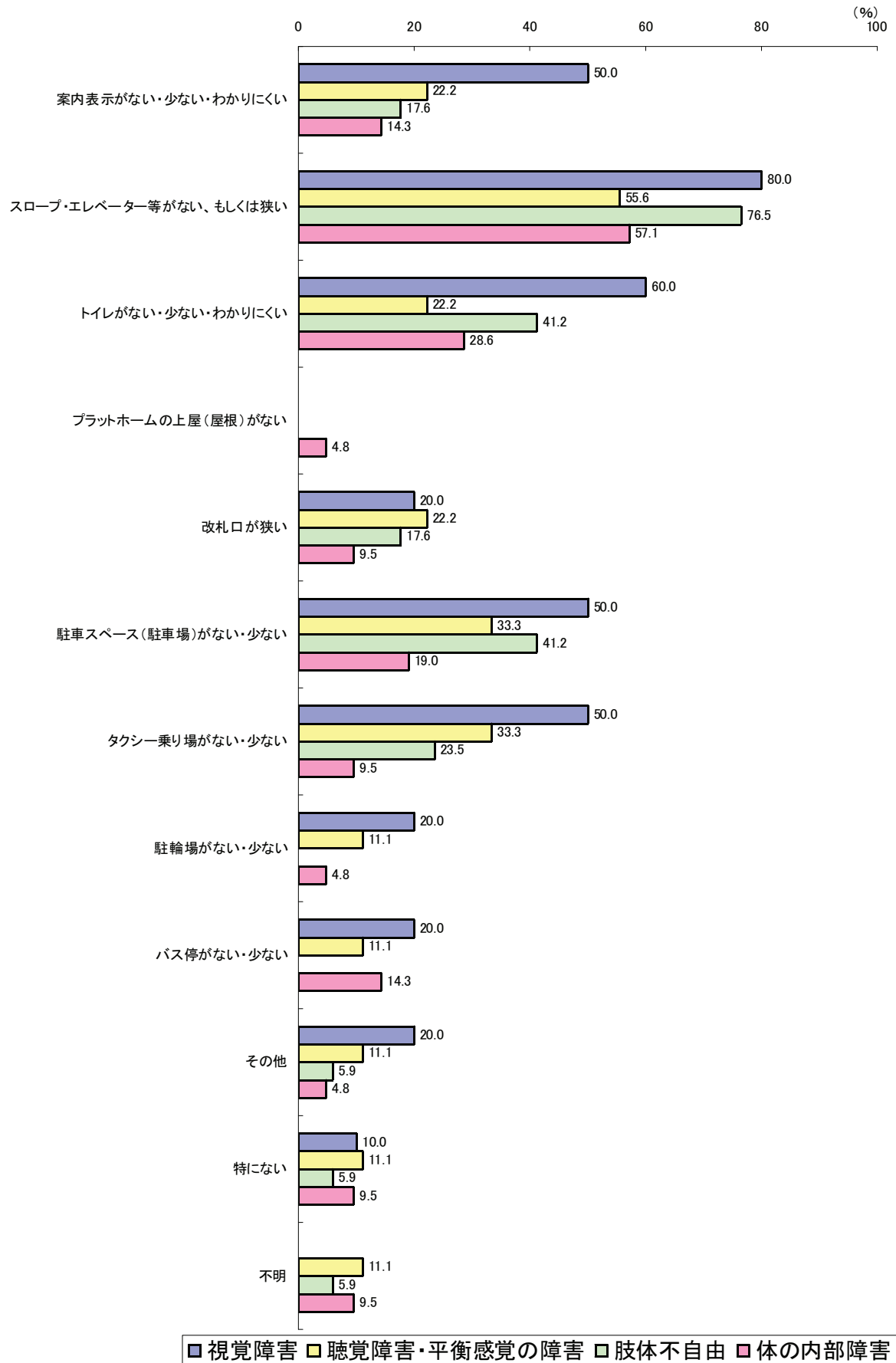
〈年齢別集計〉



〈障害別集計〉



<障害別集計(内訳)>



※なお、数値が記入されていない箇所は回答割合が0%となっている。